

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスさんりんしゃ			
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数制であることにより、子ども一人ひとりの様子を丁寧に把握し、安心できる環境の中で過ごすことができます。また、児童発達支援を併設しているため、異年齢での関わりが自然に生まれる環境があります。年下の子どもに優しく接したり手伝ったりする経験を通して、思いやりや責任感が育まれています。	異年齢での関わりが無理のない形で行われるよう、活動内容や場面を調整しています。年上の子どもが役割を持つように配慮しつつ、負担にならないよう職員が間に入りながら見守っています。少人数の特性を生かし、それぞれの発達段階に応じた関わり方を大切にしています。	異年齢交流の目的をより明確にし、社会性や自己肯定感の向上につながるよう計画的に取り入れていきます。また、安全面や個々の特性に十分配慮しながら、双方にとって成長の機会となる関わりを充実させていきます。
2	自然環境を生かし、屋外で体を動かす活動や体験的な活動を取り入れていることが強みです。自然の中での遊びは、体力づくりだけでなく、感覚面への刺激や情緒の安定にもつながっています。室内活動だけでは得られない経験を積むことができる環境です。	天候や子どもの体調、安全面に配慮しながら活動を実施しています。自然の中での遊びを通して、ルールを守ることや順番を待つことなど、社会性を育む要素も取り入れています。	活動のねらいをより明確にし、発達課題と結び付けながら計画的に実施していきます。また、安全管理体制の確認を継続し、安心して活動できる環境を整えていきます。
3	日々の打ち合わせや記録を通して職員間の情報共有を行い、子どもの様子を複数の視点で把握しています。少人数の体制であるため連携が取りやすく、支援の方向性を統一しやすい点が強みです。	朝の会や業務日誌を活用し、その日の様子や気づきを共有しています。支援内容や役割分担を確認しながら、チームとして対応できるよう心がけています。	振り返りの機会をより充実させ、支援の質の向上につなげていきます。また、研修への参加や外部機関との連携を通して専門性を高め、チーム全体の支援力の向上を図っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	少人数制であるため、大人数での集団活動や役割分担を伴う活動の機会が限られています。集団の中での協調性や自己主張、他者との調整力を経験する場面が十分とは言えない点が課題です。	一人ひとりに丁寧に関わる体制を重視していることにより、自然に大きな集団が形成されにくい環境であることが要因です。落ち着いた環境づくりを優先してきたことも背景にあります。	少人数であっても、役割を設定した活動やルールのある遊びを計画的に取り入れ、集団での経験を意識的に増やしていく必要があります。また、異年齢交流を活用し、社会性を育む機会を広げていきます。
2	現在の職員体制や規模により、専門的なプログラムや多様な活動を十分に展開できない面があります。活動内容が一定の範囲にとどまりやすいことが課題です。	職種が限られていることや事業規模の特性により、多職種の視点を内部に十分取り入れることが難しいことが要因です。	外部研修への参加や専門機関との連携を通して知識や支援技術を高め、活動の幅を広げていく必要があります。必要に応じて外部の助言を受けながら、支援の質の向上を図っていきます。
3	地域との交流や外部機関との継続的な連携については、まだ十分とは言えない状況があります。地域のイベント等への参加も今後の課題です。	開設間もないことや、日々の支援体制の整備を優先してきたことにより、外部との関わりに十分な時間を確保できていないことが要因です。	今後は地域の会議や連携の場への参加を検討し、関係機関との情報共有を強化していきます。また、地域資源を活用しながら、子どもたちの経験の幅を広げていく取り組みを進めていきます。